



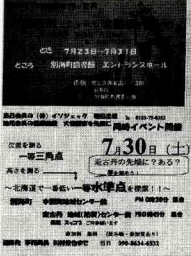
伊能忠敬とニシベツ地図展覧号外

見つけられるか水準点

あす走古丹で探索作業 別海

別海町内には、1802年、明使節団に随行し測量した水準点も残っているが、1803年の測量は行われていない。海岸線の地形変化が激しいことから、埋没された可能性もある。この水準点を探し出すのが、あすの探索作業だ。一般の人の参加も可能で、若者は「もぐり」が人気だ。平山公徳

浸食された可能性も



水準点とは、各地の標高を基準とする高さ。1803年の測量は、高松の山を基点として行われていた。この水準点を探し出すのが、あすの探索作業だ。一般の人の参加も可能で、若者は「もぐり」が人気だ。平山公徳

世紀の大発見 発見者は小学生林優貴君

この水準点を探し出すのが、あすの探索作業だ。一般の人の参加も可能で、若者は「もぐり」が人気だ。平山公徳



発見者の林優貴君と調査員たち

この水準点を探し出すのが、あすの探索作業だ。一般の人の参加も可能で、若者は「もぐり」が人気だ。平山公徳

調査員たちによる説明

一等水準点之記

備考	測量者	測量日	測量時間	測量回数	石質	地質	所在地	線路	所在
巨 萬 (768) - (767) - (766) Km 2,139.9 Km 2,152.1	林 優 貴	昭和30年 6月17日	午後1時	1回	砂	砂	別海町 磯田	別海線	別海町 磯田

一等水準点の保護石や割栗石らしきものが発見されたのは磯田委員の測量による予想位置の南側約1メートル地点の水没した砂の中。左端は今西教育委員長。



水没した砂の中に埋まっていた

一等水準点の予想位置割出しの測量方法について元国土地理院長野々村邦夫氏と多摩自然科学研究会事務局長石川孝織氏に説明する磯田委員。



予想位置割出しの説明(磯田委員)

林君の探し当てる地点を大きく掘り下げていくと、大小さまざまの石が出てきた。他の地点ではなかったく石は出てこないのでも、何となく思われます。



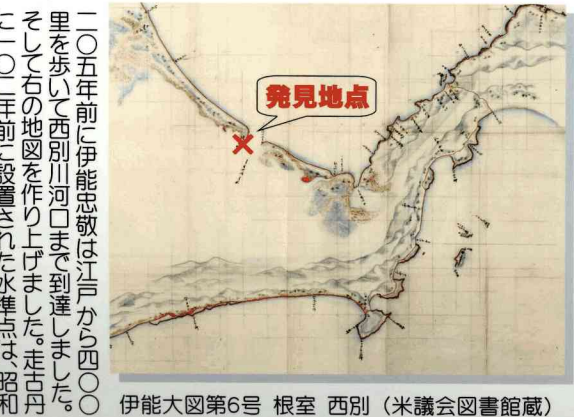
深く掘り下げる福原委員

金属棒を砂に刺して探索しているうちに、「ガン」という音がした。翌日には発見者は地元別海中央小学校5年生林優貴くん。



発見者 林 優貴君

二〇五年前に伊能忠敬は江戸から四〇〇里を歩いて西別川河口まで到達しました。そして右の地図を作り上げました。走古丹一〇一年前に設置された水準点は、昭和三十年の観測後五〇年間所在不明となっていました。今回の伊能地図展や水準点探索で子どもたちが地図や測量に興味を持ってくれたことが主権者として何よりもうれしく思います。事務局員 川村俊也



伊能大図第6号 根室 西別 (米議会図書館蔵)

保護石の発見は別海町長教育長に報告されその日のうちに発見者や実行委員と一緒に祝杯をあげた。翌日には釧路滞在中の矢口彰国土地理院長へ丹羽勝夫実行委員長が直接報告。



発見された保護石や割栗石